

2025年度上智大学体育会サッカーチームOB会幹事会議事録

I. 開催日時：2025年11月29日（土）15:00～16:30

II. 場所：ソフィアンズクラブA会議室 & Web開催

III. 参加者（敬称略、（ ）内は卒年）：

中迫(77)桑江(88)山崎・松本(89)・神尾(90)藤田(96)斎藤(97)山野(06)澤田(87)佐山部長(08)

現役：塙・唐澤・福島・須藤・渡部・島・末村(3年)

IV. 議題

1. OB会支援活動について

(1) 支援状況について

・澤田から資料により以下の説明があった。

- ① 幹事の皆様からの声掛け、現役のOB訪問再開の効果もあり大幅に支援が増加した。6月の口座振替が完了し支援実績は1,986千円に達し、年間目標の200万円は、今日達成されると期待している。⇒有志の支援により達成。
- ② 特殊要因もあり、今後の安定支援のためにも、来年も支援者数200名達成を目指したい。2011年以降卒業の世代は伸びしきが大きい。
- ③ 65歳以上のOBからの支援は減少傾向となるので、若手の支援増加が喫緊の課題であることを共有した。

(2) 以下の質疑があった。

- ① 口座振替の増加数は？ 20⇒28。今年卒業のOBは数名申し込んでいただいた。
- ② OB訪問は有効だったか？ 大変有効で、歓迎するOBが多かったと聞いている。来期は口座振替いただいているOBへの訪問（入金されるから行かない…ということではなく）こそ、有効で歓迎される。現役とも有効な訪問方法（作戦）を検討してゆきたい。

2. 現役の活動状況

塙主将から、リーグ戦ならびに東京カップの戦績について説明があり、チーム状態は良く来期の関東3部昇格にむけての決意表明とOBからの引き継ぎの支援の依頼があった。

OBとの質疑

・主力の4年生卒業に伴う戦力ダウンは？

⇒出場機会に恵まれなかった選手を起用しバランスの良いチームになっている。有望な1年生が数名入る可能性もあり戦力は維持できる。

・今シーズンは失点が少なかった。リーグ戦は負けなければ勝ち点が着く。しっかり負けない、降格しないチームを作りたい。

⇒ 承知した。

3. 25年OB会の活動総括について（案）⇒26年総会で報告

（1）2025年活動計画と実績について

2025年			計画	実績
1月	11日(土)	初蹴り（東戸塚FBP）	参加目標 30名 24年 実績OB 22名、現役 6 名、他 1名が参加）	参加者：約 10名 現役と紅白戦実施
	25日(土)	OB総会(ワイス'クラブ)	参加目標：20名	16名参加(含現役 1名)
3月	15日(土)	幹事会		17名参加
4月	12日(土)	体育会OB会長会		澤田参加
5月	17日(土)	幹事会		10名参加
	25日(日)	ASF 親善試合	目標：30名参加	試合中止(G 不良) 35名参加(含現役)
6月	22日(土)	体育会OB会総会	4名参加	5名参加
7月	5・6日	上南戦（東京開催）	目標：15名参加 南山OBと懇親会実施	8名参加/応援 5名 4名参加
	19日(土)	幹事会（10:00～）		10名参加(現役 1名)
9月	20日(土)	幹事会（10:00～）		文書のみ回覧
11月	22日(土)	体育会OB会長会		澤田、山崎、中迫参加
11月	29日(土)	幹事会（15:00～）		本日
12月	20日(土)	マラソン大会		

（2）総括と来期に向けた課題

- 澤田から資料により以下の説明があった
 - OB間交流も60代、50代と世代別の交流が増えた。ASFの懇親会は参加者が増加したが、他の部の年次のOB会は50名以上集まるのが一般的。今回集まった50代前後の世代を中心に全世代が集まる懇親会にしたい。幹事を中心に各世代で1年に1回世代OB会ができると良い。
 - 幹事の輪番制は今後の活動維持のために、引き続き維持したい。支援が厚くなれば、交流にもっと重きを置いて事務負担は減らしてゆく。同時に役割分担を決めて一人の負担を減らしたい。
 - OBの皆さんのが忙しいのは理解しているが、OB会の運営に関しては広い世代から意見を伺いたい。
 - 来期は名簿（データ）の更新を実施する。
 - 現役の帶同は、相変わらず中迫さんの負担が大きい。帶同スタッフの増加と負担の分散は来期も課題。
 - 支援増加しているが、現役側の使途について、現役は総会で報告するよう依頼した。
 - 2031年が100周年となるので、今後少しづつ幹事会で準備を進める。
 - メールを見る人が減っている。通信手段も見直す必要がある。

4. 2026年の活動計画（案）について

- 澤田から以下の説明があった。

（1）活動方針

①基本方針は「現役強化のための支援」「O B間の交流促進」世代毎のO B会は、活動活性化に有効。下の世代に裾野を広げたい

②Goal（財政的支援）の設定：

a.KGI:支援金目標：220万円（26年度300万円⇒220万円、100周年（31年度）には500万円は変わらず）

b.KPI：参加者200名（計算上は203名）

参加率の増加：全体の参加率24.2⇒32.3%

（2）2026年の主な活動

主な予定：

2026年			計画	備考
1月	11日(日)	初蹴り（Anker フロンタウノ生田）12時～ 対 SOCIOS FC	参加目標30名	SOCIOS（東京1部、O-30女子サッカー全国ベスト4）
	31日(土)	O B総会（ワイアング クラブ）	参加目標：20名	
3月	14日(土)	幹事会		
4月	18or25日	体育会O B会長会		
5月	16日(土)	幹事会		
	31日(日)	ASF 親善試合	目標：30名参加	
6月	13or20日	体育会O B会総会	4名参加	
7月	4・5日	上南戦（名古屋開催）	目標：15名参加 南山O B懇親会	
	25日(土)	幹事会（10:00～）		
9月	26日(土)	幹事会（10:00～）	報告のみ	
11月	21日(土)	体育会O B会長会		
11月	28日(土)	幹事会（10:00～）		
12月	19日(土)	マラソン大会		

（3）他の懸案事項

①O B名簿（データ更新、印刷の可否、データの保管方法他）。

②100周年（2031年）に向けたO B会の活動

③真田堀グランドの人工芝化への活動。

（4）質疑

・現役が1部に復帰して関東を目指そうという状況下、支援金の目標は現実的だが、もう少し高い設定が必要ではないか。

⇒ 総会までに再考する。

5. 真田堀の人工芝化について

・山崎副会長より以下の説明があった。

11月22日（土）のOB会長会にて、本件の進捗状況ならびに現状について質問し、体育会OB会長会小川会長から以下の回答があった。

- a. 兼ねてから懸案事項となっていた、文化庁が管轄する「遺跡調査に関する問題」はクリアしたという結論。
- b. 2026年度から、自治体（東京都、新宿区、千代田区、港区）、大学（学生センター）、学生（体育会常任委員会）により、具体化に向けた検討が始まる。以前作成されたマスタープランは、たたき台になるかもしれないが、現状は白紙の状態である。今年度はそれ以上の動きはない。
- c. 情報の交錯が無きよう、統一した情報を関係部のOB会に文書で共有いただくよう依頼し、小川会長が承諾した。

サッカー部OB会の動きとして検討すること。

- a. 他部OB会と情報共有する。極力、学生と情報と問題意識を共有できる人材（監督、コーチ経験者等）
- b. 学生との連携も必要になるので（例：常任委員会やグランド系の各部との情報共有）、現役に協力を要請した。（現役は承諾）

・藤田副会長から

令和4年7月21日付の資料を共有しながら、当時の学長と直接面談し、他大学の状況を例示し学生が活動において苦慮していることを説明。学長側からも前向きに理解をいただいたことを説明した。当時を勘案すると、本日の報告は不本意であるが、必要なケースは資料含め支援する意向を伝えた。

6. その他

- (1) 初蹴り、総会は日程が決まっているので多数の参加を期待したい。特に初蹴りは、久々に女子チーム（強豪）との対戦がある。50～60代では厳しいので30～40代のOBに是非とも参戦いただきたい。
- (2) 参加した現役からは関東3部昇格を目指して頑張る旨、各人から決意表明していただいた。
- (3) 各OBから、今期を振り返り、OBならびに現役との交流が増えたこと。現役への激励の言葉があった。

以上